トップニュース

消毒用の雑巾作り 保育園などへ贈る

新型コロナの感染対策で、毎日の消毒作業が必要となる幼稚園や保育園、認定こども園の保育施設、児童養護施設などで役立ててもらおうと、大阪教区仏教婦人会連盟と同教区寺族婦人会連盟は、雑巾を作り、届ける活動を昨年秋から続けている。これまでに4000枚超が同教区教務所（大阪市中央区）に寄せられており、大阪府内19施設に順次届けている。

府内の保育園で園長を務める岩田公子さん（同教区保育連盟理事長）が昨年秋、教区のある会議で「新型コロナの感染拡大予防のために園では毎日塩素消毒を行っているが、作業に使う雑巾がすぐに傷んでしまい、数が足りない。雑巾を寄付してくださる方がおられたら助かる」と呼びかけたのが始まり。

これを伝え聞いた仏婦、寺婦両連盟が「新型コロナのまん延で、会員同士で集まることができずに活動が停滞している。私たちに手伝わせてほしい」と協力を申し出た。両連盟は合同で雑巾募集のチラシを作成し、教区内の寺院などに配り、雑巾作りを呼びかけた。

雑巾不足知り会員に呼びかけ

大阪教区仏婦連盟＆寺婦連盟

求められる雑巾は、四つ折りにしたタオルを縫い合わせたもの。生地や糸の色は自由。出来上がった雑巾は同教区教務所に集められ、そこから必要とする施設に随時送っている。9月6日までに、個人や単位会、組連盟から4163枚の雑巾が集まり、19の保育施設や児童養護施設に順次届けている。

自宅でできる活動

チラシを見てすぐに取りかかったという大阪府吹田市・正業寺仏教婦人会は、鈴鹿しおみ坊守が「それぞれ会員が自宅でできる活動だと思い、役員さんと相談して会員の皆さんに協力を呼びかけた。雑巾は毎月16日の仏婦例会に持ち寄ってくださり、これまでに段ボール2箱分を教務所に届けた。施設の職員さんのご苦労を思いながら、積極的に取り組んでいる」と話す。

東住吉組仏婦連盟（髙田三幸委員長）と同組寺婦連盟（天岸章子委員長）は合同で取り組む。「従来のように集まって何かをしようにも人数制限があり、コロナ対策も大変なので、活動を躊躇していた。雑巾作りは各自ででき、教務所がパイプ役となって支援先を探して届けてくださるので、私たちも有り難い」と語る。

岩田さんが園長を務める枚方市・常稱寺保育園など3つの保育園では、0歳から6歳までの乳幼児を7時から20時まで保育している。行政の指導で休園した時期や、多くの職員が罹患したことで運営が困難な状態もあったという。岩田さんは「休園、集団感染を防ぐために、1日2回の塩素消毒と水ふきの作業を行っている。子どもが触れる床や壁、ドア、棚、机、イスなど隅々まで消毒し、塩素も使用するので雑巾の傷みが早い。保護者に雑巾の提供を呼びかけてきたが、不足していた。婦人会の方々に雑巾を作っていただき、ものすごく助かっている。こうした地域支援に仏婦や寺婦の皆さんが関わってくださっていることに感謝しかない」と話す。

2023年版
法語カレンダー
好評発売中　法話集も刊行

2023年版「法語カレンダー」（税込150円、真宗教団連合発行）を本願寺出版社で好評発売中。

表紙の「親鸞聖人の出現は私一人のためであった」（写真）をはじめ、「宗祖親鸞聖人に遇う」をテーマにした法語が月ごとに掲載される。挿絵は画家・山口晃さん。

また、「法語カレンダー」の法語を味わう法話集2冊を本願寺出版社で刊行・発売している。

短編法話集『心に響くことば』（新書判96ページ、税込132円）は、布教使の中川清昭さん（仏教婦人会総連盟講師）が執筆。ご門徒へのプレゼントにもおすすめ。

『月々のことば』（B6判172ページ、税込770円）は、宗門校の大学教授など4人の共著。経典、親鸞聖人や七高僧の聖教などを引用しながら、法語がわかりやすく解説される。

お求めは、下記の注文専用フリーダイヤル。

本願寺出版社 注文専用フリーダイヤル 0120-464-583

慶讃法要お待ち受け 交流布教大会

10月26日　ネットで八幡、名古屋別院結ぶ

八幡別院（滋賀県近江八幡市）と名古屋別院（名古屋市中区）の両会場をインターネットで結ぶ「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要お待ち受け 滋賀・東海交流布教大会」が10月26日、13時30分から3時間開催される。主催は滋賀教区布教団と東海教区・七歩倶楽部（若手布教使など有志で組織）。

会場（両別院）で直接聴聞できるほか、ウェブ配信（生中継）を通して、自宅からパソコンやスマートフォンなどで視聴できる。おつとめ、開会の挨拶の後、まずは13時45分から名古屋別院で東海教区の2人の布教使が30分ずつ法話する。休憩をはさみ、15時からは八幡別院で滋賀教区の2人が法話を続ける。

会場での聴聞希望者は、できるだけ事前に八幡別院（☎0748-33-2466）、名古屋別院（☎052-321-0028）にご連絡を。配信はユーチューブチャンネル。「七歩倶楽部」で検索。

問い合わせはeメールのみ。7ho@mail.707.to

両組織の交流は、昭和57年に三重県の若手布教使で結成した七歩倶楽部と、滋賀教区の若手布教使が共に布教研さんに励もうと布教大会を開いたことに始まる。以来、毎年会場を交互にして大会を続けてきたが、2年前から新型コロナの影響で中止していた。アイデアを出し合い、3年ぶりの開催となった。

旅行ガイド誌
るるぶ 親鸞ゆかりの地
11月11日 全国書店で発売

JTBパブリッシングは人気旅行ガイドブックシリーズ「るるぶ」で、新たに「親鸞ゆかりの地」を発行する。11月11日に全国書店で発売予定、定価1100円（税込）。来年に迎える親鸞聖人御誕生850年と立教開宗800年を記念し、真宗10派で組織する真宗教団連合協力のもと企画された。

親鸞聖人ゆかりの地や、真宗10派各本山の詳細ガイド。「るるぶ」らしく、本山近くの観光スポットや食べる、買うといった旅行の楽しみを提案するほか、モデルコースも掲載する。

20冊以上一括で25%引
特別購入を受付中
締切は10月7日13時

発行元のJTBパブリッシングは現在、1カ所20冊以上の一括注文で、定価の25%割引となる特別価格（1冊825円、税込）で購入できる「特別購入」の申し込みを受付中。締め切りは10月7日13時。送料無料、代金引換のみ（手数料は購入者負担）。申し込み用紙は教団連合ホームページ（QRコード）でダウンロード。必要事項を記入し、JTBパブリッシング出版営業部直販チームFAX03(6888)7823。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年記念

本願寺新報
hongwanji journal
10月1日（土曜日）
毎月1日・10日・20日発行
発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

創業1400有余年の寺社建築技術
金剛組
https://www.kongogumi.co.jp/
フリーダイヤル 0120-054-731

私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように
一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように
一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように
一、生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

赤光 白光

黄金色になった稲田のあぜ道に真っ赤な花が彩る時期となった。ヒガンバナという名称は、秋の彼岸の頃に咲くのでこの名がある。この花に「西方の極楽世界を教え、いざなってくれているように見える」と言った人がいた。

▼ヒガンバナには別名が多い。それは多くの人に知られ、生活の中で語られてきた証拠であろう。曼殊沙華もそのひとつで、仏典に由来した名である。曼殊沙華はサンスクリット語でマンジューシャカといい、柔軟草と訳す。見るものをして剛強を離れしめるという天の草との説明がある。また経典には「釈尊が経を説き竟って天は曼陀羅華、摩訶曼陀羅華、曼殊沙華、摩訶曼殊沙華を雨降らし、仏の上及び諸々の大衆に散じた」ともある。ほかにも、真っ赤な色が死と結びつくところから「シビトバナ」「ユウレイバナ」「ハカバナ」とも呼ばれる。

▼北原白秋の「曼殊沙華（ひがんばな）」という詩には「GONSHAN（ゴンシャン）GONSHAN 何処へゆく 赤い御墓の曼殊沙華（ひがんばな） 曼殊沙華 今日も手折りに来たわいな」とある。山田耕筰の曲がつき、何か恐ろし気な雰囲気が伝わってくるが、子を亡くした母親が子の年を数える苦悩が歌われているという。

▼この花は、飢饉の時などの救荒作物ともなった。田のあぜに植えられているのは、モグラを防ぐためとも聞いた。花期は1週間程度とのこと。盛りの頃を見て、心落ち着く時間を持ちたいものである。

親鸞聖人御誕生 850 立教開宗 800
ご縁を慶び、お念仏とともに

福岡支局 〒812−0002 福岡市博多区空港前 3-9-16 善教寺内
電話 092(621)5163/FAX092(621)9400
購読料 1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171
宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto

本願寺御用達
扇子 中有扇子啓職
扇子調進所
遠藤新兵衛商店
〒600-8334
京都市下京区油小路通六条南入
電　話 (075)351-1367
ＦＡＸ (075)351-1476
http://www.endo-shinbey.com

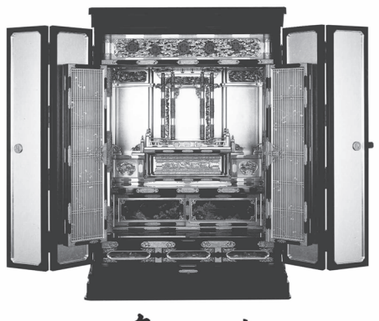
原木から製品まで、寺院仏閣のトータルプランナー
株式会社 あいぞの
株式会社 あいぞの寺社ラボ

大谷本廟様 新無量寿堂読経所御内陣納入

鹿児島別院様 慈光堂オリジナル納骨壇納入

■オリジナル納骨壇企画製作　■本堂現場漆塗・彩色工事
■本堂・納骨堂内部仏具設計施工　■寺院建築企画設計
■仏像・彫刻製作及び修復　■寺院建築修復・施工
■寺院用具一式　■寺院法規・資金計画相談

〒814-0004 福岡市早良区曙２丁目７番13号
フリーダイヤル 0120-168-940
HP:http://www.aizono.co.jp/



彦根仏壇
佛 創業文政三年 仏壇・仏具 永楽屋 EIRAKUYA
経済産業大臣指定 伝統的工芸品
本店・本社 滋賀県彦根市芹中町40 永楽屋 EIRAKUYA Butsudan Factory
0120-23-1466 仏壇工場
草津店 / 長浜店 / 水口店　彦根 永楽屋 検索

最新刊 帰京後の親鸞―明日にともしびを―⑥
七十六歳の親鸞
今井雅晴（筑波大学名誉教授）
『浄土和讃』と『高僧和讃』
聖人が初めて、文字の読めない、仏教学的素養のない人たちを念頭に筆を執った『浄土和讃』『高僧和讃』に込められた思いとは。
B6判・並製・100頁　1100円

聖人の晩年30年に迫るシリーズ《全15冊》予約受付中
自然の声に聞く1・2
大田利生（本派勧学・龍大名誉教授）
お施本に最適
草花、風や雲、虫の音に季節の移り変わりを感じ、それらの声に耳を傾ける中で、自他の執らわれを離れ、わが身のまことのありように気づかされてゆく読み切りエッセイ各10篇。
※2018年、自照社出版発行の同名書を2分冊にしたもの。
B6判・中綴・各36頁　各165円　＊50部以上割引あり

＊価格はすべて税込　＊送料・発送手数料：ご注文合計6,600円未満＝一律400円、6,600円以上＝無料
合同会社 自照社　ホームページ：https://jishosha.shop-pro.jp
【大田利生先生 書き下ろしコラム配信中!!】
滋賀県大津市日吉台4-3-7 電話：077-507-8209 FAX：077-507-9926